

## 犬飼隆教授略歴・業績



### 学 歴

昭和 47 年 3 月 東京教育大学文学部卒業

昭和 49 年 3 月 東京教育大学大学院文学研究科修士  
課程修了

昭和 52 年 3 月 東京教育大学大学院文学研究科博士  
課程単位取得退学

平成 5 年 2 月 博士（言語学）筑波大学

### 職 歴

昭和 52 年 4 月 学習院女子短期大学専任講師

昭和 54 年 4 月 同上助教授

昭和 59 年 4 月 神戸大学教育学部助教授

昭和 59 年 5 月 神戸大学大学院教育学研究科担当助教授

平成 6 年12月 神戸大学国際文化学部教授

平成 8 年 4 月 愛知県立大学文学部・愛知県立女子短期大学教授

平成 10 年 4 月 愛知県立大学大学院国際文化研究科担当教授

平成 21 年 4 月 愛知県立大学日本文化学部教授

平成 26 年 3 月 同上定年退職

### 役職歴

平成 11 年 4 月～13 年 3 月 愛知県立大学評議員

平成 13 年 4 月～17 年 3 月 愛知県立大学文学部長

平成 17 年 4 月～18 年 3 月 愛知県立大学評議員

平成 19 年 4 月～20 年 3 月 愛知県立大学教務部長

平成 21 年 4 月～23 年 3 月 愛知県立大学日本文化学部長

## 研究業績

### 単著

- 『上代文字言語の研究』 笠間書院 1992 【増補版 2005】  
『文字・表記探求法』 朝倉書店 2002  
『木簡による日本語書記史』 笠間書院 2005 【増訂版 2011】  
『漢字を飼い慣らす』 人文書館 2008  
『木簡から探る和歌の起源』 笠間書院 2008

### 共 著

- 『万葉集事典』 有精堂 1975  
『日本文法事典』 有精堂 1981  
『国語科指導資料集 表現・言語編』 東京法規 1982  
『講座日本語学6 現代表記との史的対照』 明治書院 1982  
『古語大辞典』 小学館 1983  
『絵解き台本集』 三弥井書店 1983  
『日本語解釈活用事典』 ぎょうせい 1993  
『音声文法の試み』 文部省重点領域研究『日本語音声』 研究成果報告書 1993  
『ことばの知識百科』 三省堂 1995  
『古事記研究大系10 古事記の言葉』 高科書店 1995  
『古事記研究大系11 古事記の世界上』 高科書店 1996  
『日本語学キーワード事典』 朝倉書店 1997  
『文法と音声』 くろしお出版 1997  
『文法と音声Ⅱ』 くろしお出版 1999  
『万葉史を問う』 新典社 1999  
『古代日本の文字世界』 大修館書店 2000  
『高岡萬葉歴史館叢書13 家持の争点Ⅰ』 高岡萬葉歴史館 2001  
『書くことの文学』 笠間書院 2001  
『文法と音声Ⅲ』 くろしお出版 2001  
『日本語の文字・表記』 国立国語研究所 2002  
『美濃国戸籍の総合的研究』 東京堂出版 2003  
『文法と音声Ⅳ』 くろしお出版 2004  
『古代日本 文字の来た道』 大修館書店 2005

- 『朝倉日本語講座 2 文字・表記』朝倉書店 2005
- 『日本古代史大辞典』大和書房 2006
- 『文法と音声Ⅴ』くろしお出版 2006
- 『列島の古代史 6 言語と文字』岩波書店 2006
- 『房総と古代王権』高志書店 2009
- 『万葉集の今を考える』新典社 2009
- 『古事記を読む』吉川弘文館 2009
- 『いくさの歴史と文字文化』三弥井書店 2010
- 『音声文法』くろしお出版 2011
- 『日本語と日本語教育のための日本語学入門』明治書院 2011
- 『語り継ぐ古代の文字文化』青簡舎 2014
- 図録『文字のチカラ―古代東海の文字世界―』名古屋市博物館内「文字のチカラ」展実行委員会 2014
- 『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店 2014

## 教科書

- 『国語学』学術図書出版 1984

## 学術論文（抜粋）

- 「万葉“仮名”から仮名へ」『国語学』第九十三集 国語学会 1973・6
- 〈以下、単著に改稿収録したもの、参照に値しなくなったと思うものは挙げない〉
- 「松尾明神の落魄」『国語国文論集』第八号 学習院女子短期大学 1979・3
- 「平安末期複合動詞の意味構造」『国語語彙史の研究』九 1988・11
- 「言語における文字の位置」『小松英雄博士退官記念日本語学論集』三省堂 1993・3
- 「『地名字音転用例』が論じたもの」『鈴屋学会報』第十五号 鈴屋学会 1998・12
- 「花いちもんめの来歴と伝播」『愛知県立大学児童教育学科論集』第36号 2003・3（墨功恵との共著）
- 「「歌の文字化」論争について」『美夫君志』第七十号 美夫君志会 2005・3
- 「木簡にあらわれた已然形単独の条件表現」『萬葉』第百九十六号 2006・11
- 「古代語資料としての出土物」『日本語の研究』第4巻1号 日本語学会 2008・1
- 「名古屋言葉絵葉書の書誌的研究」『愛知県立大学国際文化研究科論集（日本文化編）』第1号 2010・3（成田道子との共著）

- 「日本漢字音のなかの古層」『日本語学』明治書院 第30巻3号 2011・3
- 「天平期の学制改変と漢字文化を支えた人材」『萬葉語文研究』第6集 2011・3
- 「平家正節の「上<sup>レ</sup>」の発声法」『愛知県立大学文字文化財研究所年報』第4号 2011・3
- 「漢字で日本語の物語をつづるための技術」『説林』第61号 2013・3
- 「ハの万葉仮名「皮」の来源を探る」『日本語学』明治書院 第32巻11号 2013・9
- 「木簡は古代日本語について私たちに何を語るか」『説林』第62号 2014・3